

睡眠障害と早産のリスクの関係性について

Sleep Disorder Diagnosis During Pregnancy and Risk of Preterm Birth

Felder JN et al

Obstet Gynecol 130:573-581, 2017

背景 睡眠障害により早産のリスクが上昇している仮説が成り立つので、今回は統計学的にまとめた。

方法 2007～2012年の間に妊娠20～44週のカリフォルニアの女性を対象(妊娠高血圧、妊娠糖尿病、精神疾患などの異常妊娠は除く)にコホート研究を行った。2,265症例研究の対象となった。その対象の分娩週数に対して言及していくこととする。

結果 コントロール群(睡眠障害なし)では37週未満

で分娩に至ったものは10.9%であるのに対して、睡眠障害のある群では14.6%であった。有意に睡眠障害のある群では早産リスクが高くなるという結果であった。

結語 睡眠障害により早産のリスクは上昇するので、妊娠早期のスクリーニング睡眠障害の有無を確認することは必要なことである。

(滋賀医科大学産科学婦人科学講座 堀内辰郎 抄)

BRCA1 もしくは BRCA2 変異を持つ女性の血中 AMH 濃度の検討

Anti-Müllerian hormone serum concentrations of women with germline BRCA1 or BRCA2 mutations.

Kelly-Anne Phillips et al

Hum Reprod 31:1126-1132, 2016

目的 BRCA1/2 は DNA 損傷の修復に関与する遺伝子であり、AMH は卵巣予備能を反映する血清マーカーである。BRCA1/2 の変異を持つ女性の卵巣予備能を、AMH を用いて検討する。

方法 家族性乳癌のコホート研究である Kathleen Cuninghame Foundation Consortium for research(1997年8月19日より2012年9月18日まで登録)に参加した693人の女性の血中 AMH 濃度の横断的研究を行った。AMH は凍結保存血清を用いて2014年11月から2015年1月の間に電気化学発光免疫測定法で測定した。BRCA1 または BRCA2 突然変異の家族歴があり、当人の変異の有無が判明し、25～45歳で、癌の既往歴はなく、両側の卵巣を保持しており、妊娠または授乳中ではない症例を抽出した。BRCA1 突然変異を有する家族から、172人のキャリアおよび216人のノンキャリ

ア、BRCA2 突然変異を有する家族から147人のキャリアおよび158人のノンキャリアが、条件を満たした。血清保存時の年齢、経口避妊薬の使用、BMI と喫煙を調整後に線形回帰分析を行った。

結果 AMH 血中濃度は年齢と負の相関を示した($p < 0.001$)。突然変異キャリアは、ノンキャリアよりも若かった($p \leq 0.031$)。BRCA1 キャリアの平均 AMH 濃度は、ノンキャリアより25%(95%CI: 5%~41%, $p = 0.02$)低く、第一四分位以下であった(オッズ比1.84, 95%CI: 1.11-3.03, $p = 0.02$)が、BRCA2 群ではキャリアとノンキャリアで有意差を認めなかった($p = 0.94$)。

結論 BRCA1 遺伝子変異患者の卵巣予備能は低いと考えられ、妊孕能に影響するおそれがある。

(滋賀医科大学産科学婦人科学講座 田中佑治 抄)